

8 . 報道実績

(1)新聞及びWEB掲載

掲載所(報告書掲載順)	タイトル	日付
www.freshplaza.com	Exclusive Japanese grapes eye new destinations	2007/9/17
山陽新聞	日本の果物売り込め!	2007/9/14
山陽新聞	アジアフルーツロジスティカ出展報告	2007/9/16
Kyodoshi.com	豊橋特産の次郎柿輸出へタイの国際見本市	2007/8/30
中日新聞	次郎柿タイへ行く	2007/8/30
Asahi.com	【愛知】「次郎柿」海外へ	2007/8/31
東愛知新聞	豊橋特産「次郎柿」輸出へ	2007/8/30
中京テレビ	次郎柿が国際見本市へ	2007/8/30
東奥日報	タイ・青果物の国際見本市	2007/8/20
www.freshtalk.blogspot.com	Pre tty peach	2007/9/7
www.freshplaza.com	Low-cost Japanese fruit is on the way	2007/9/7
日本農業新聞	アジア初国際果実・野菜見本市	2007/9/2
http://matichon.co.th/prachchat		2007/9/6
http://www.thaiceotokyo.jp/	日本の寒冷地域の果物、タイにおけるニッチマーケット作りの門戸を探す	2007/9/6
www.bangkokpost.com	Low-cost Japanese fruit is on the way	2007/9/7
山陽新聞	岡山産果物 県が出展へ	2007/9/7
朝日新聞		2007/9/7
www.thailand4.com	JETRO to promote world-quality fruits at "JAPAN PAVILLION"	2007/8/14
バンコク週報	タイで輸出促進事業	2007/9/10 ~ 16
The Dairy nnA(アジア経済情報紙)	果物国際見本市に「日本パビリオン」	2007/9/6
The Dairy nnA(アジア経済情報紙)	日本の農産物をPR,農水省が販促開始	2007/9/6
ワイズ(フリーペーパー)	日本の味がさらに身近に 選りすぐりの果物と野菜をタイでも	2007/9/19
タイ自由ランド(フリーペーパー)	モモ、レモンなど関税0%へ	2007/9/5
Post Today	日本の果物タイ上陸	2007/9/8
Naew Na	世界市場	2007/8/16
Than Setakit	日本のタイ果物市場への参入 + JTEPA 施行前の大見本市	2007/8/22
The Nation Website	Japanese expect fruit windfall	2007/8/31

Advertise | About Us | Contact | Dutch Traders | Dutch | Italiano | Español

Search:

FreshPlaza: Global
Fresh Produce and
Banana News



- News | Archive | Job Offers | Photos | PriceWatch | World Retailers | Subscribe
- vegetables fruit bananas citrus potatoes organic exotics company news nuts logistics
- miscellaneous economy food safety introductions processed
- North America Europe Asia Oceania Central America South America Africa World

Exclusive Japanese grapes eye new export destinations

Tholen - At the Asia Fruit Logistica, the Japanese Prefecture of Okayama offered tasting of delicious grapes and peaches, that many visitors sure must have enjoyed. The white peach from Okayama enjoys a reputation as the number one peach in Japan.



The grapes offered for tasting were Muscat of Alexandria, Pione and Aurora Black. Okayama is the prime grape producing Prefecture of Japan, with 39% of the country's Pione production, 92% of Muscat production and Aurora Black is unique to the Prefecture, being developed by the Okayama Prefectural Agricultural Experiment Station.

Announcements

Click here to subscribe to the newsletter



Article options

Print article

Job offers

- Supplier Management Execu
- Fresh Fruit Sales Represente
- Tomato growers
- Senior Grower – U.S.A. – pio
- Arif Fresh Fruits seeks sales
- Farms Director - Murcia, Spa
- Product Specialist Canada
- Supply Chain Manager UK
- Spanish company seeks part
- professional
- Glasshouse Tomato Grower/

Top 5 - yesterday

- Jak Fruit introduces Koala ea
- navel
- New Look for Grimmway can
- packagings
- Beware 8-legged visitors
- Giant Eagle Officials: We Do
- Lettuce
- India: mango export may turr
- exchequer

Top 5 - last week

- Fresh New Zealand presents
- Red Pear
- Enza presents new bicolor ap
- Egypt casts a covetous eye c
- markets
- Mexico: dragonfruit very pop
- A year after the E. coli outbre
- industry chastened and chan

Top 5 - last month



While the bunch sizes of these grapes are kept exceptionally small, the fruit sizes grow exceptionally big. Both aspects are reached by applying specific pruning techniques. The three varieties share a common characteristic, which is an exceptionally rich flavor and a high sugar content.



Muscat is grown in greenhouses and is available for 7 months of the year, from beginning May to beginning December. Pione is shipped from the beginning of April till the end of November, while Aurora is shipped from May to September. The bunches are retailed at price levels around 12 USD per bunch. Shippers have targeted niche export markets to bring these exclusive fruits to the high end retailers that service customers with exclusive tastes.

For more information, contact:
 Keiko Katayama
 Senior Manager Agriculture Market Promotion Section
 keiko_katayama@pref.okayama.lg.jp



Canada: Baby carrot recall
 Canada: Sealed Air in deal for packaging?
 US: Goodbye to oranges?
 Landec Corp: Going Banana:
 Univeg Group acquires Katoj

Remaining news

Dwell-Time bill fails to pass E
 AirForceTimes.com
 Deadly Beirut blast kills anti-
 National Post
 180000 Private Contractors F
 The Associated Press
 The Afternoon Report - Wall
 Journal
 Death toll from typhoon Wiph
 five - Xinhua
 Send news tip to FOXNews.c
 News
 Bush Asks Congress to Exter
 Program - Washington Post
 Jesse Jackson: Obama need
 more attention to Jena 6 - CN
 International
 Did the Fed go too far? - CN
 Morgan Stanley Curbs Enthu
 BusinessWeek
 Wall Street rallies for second
 Online
 IBM Lotus Symphony (Linux)
 Reviews
 Extreme is the next main stre
 chief - Hindu
 The : -) is 25; inventor tells he
 born - Philadelphia Inquirer
 Reports: Chelsea's Mourinho
 International

Source: Google News

Economic news

Did the Fed go too far? - CN
 Morgan Stanley Curbs Enthu
 BusinessWeek
 Wall Street rallies for second
 Online
 Southwest Airlines plans to c
 international air travelers - Lo
 Times
 California seen as model for l
 in US - San Jose Mercury Ne
 Where crude goes now may
 dollar - Moneyweb
 GM, UAW Discuss Retiree-Fi
 Alternatives, People Say (Up
 Bloomberg

Source: Google News

日本の果物

経済発展に伴い増加した東南アジアの富裕層に、日本の果物を売り込む動きが本格化し始めた。農水省は、タイやシンガポールを果物輸出の「重点国」と位置付け、自治体や農協も特産品のアピールに乗り出している。

農水省統計では、日本の果物の輸出額は輸入額の約三十分の一とわずか。日本貿易振興機構(ジェトロ)によると、タイでは輸入の約56%が比較的安価な中国産で、日本産は0.6%にすぎない。多くの種類の果物を収穫できるタイへの輸出拡大には「品質の高さで差別化を図る」(ジェトロ担当者)必要がある。

岡山県からブドウ、桃

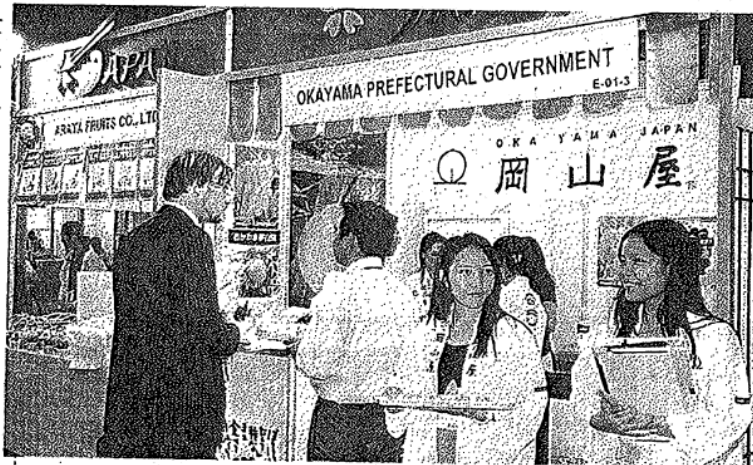
バンコクで試食会も

九月にバンコクで開かれた果物・野菜の国際見本市には、日本も九ブースを出展。岡山県農政企画課の片山圭子主幹は「まずは味を知ってもらいたい」と、各国の参加者に県産ブドウの試食を呼び掛けた。

岡山県は昨年、バンコクでブドウと桃の試食即売会を開き、計約二百三十キلوを完売。片山主幹は「傷みやすいので輸送には気を使うが、受け入れられる手応えは十分ある」と意気込む。

果物店、フルーツむらた(本社金沢市)は昨年、バンコク中心部のデパートに出店した。ブドウ一房千ガ(約

東南アジア富裕層へ



9月にバンコクで開かれた果物・野菜の国際見本市で、ブドウを売り込む岡山県のブース(共同)

三千七百円)、桃一個四百五十ガと高価で、客の約八割は裕福なタイ人だ。売れ筋は「甘くて大きい」(客の女性)と評判のイチゴ、桃という。
村端一男専務は「贈答用詰め合わせも人気がある。いずれは中流層も購買できる価格設定を目指したい」と話した。(バンコク共同 田島秀則)

売り込め!

アジア・フルーツ・ロジスティカ出展報告

ドイツ・ベルリンで過もに、他国の出展者から去十六年間開かれてきたアジア以外の市場の情報、興業などの国際見本市を得ることを期待して出展した。「アジア・フルーツ・ロジスティカ」として五〜七日、アジアで初めてタイ・バンコクで開催された。その記念すべき第一回に、ジェットロ(日本貿易振興機構)が日本からの出展者のためナショナルパビリオンを設け、そこに岡山県が出展した。

「ロジスティカ」として五〜七日、アジアで初めてタイ・バンコクで開催された。その記念すべき第一回に、ジェットロ(日本貿易振興機構)が日本からの出展者のためナショナルパビリオンを設け、そこに岡山県が出展した。



ジェットロ岡山 清水えり奈

しみず・えりな 学習院大学院修了後、ジェットロ入り。産業界情報輸出促進課を経て2006年6月からジェットロ岡山勤務。

岡山の果物世界に発信

岡山県は昨年、反してタイ以外の国からバイヤーを対象にマーケティングが可能となった。岡山県は昨年、反してタイ以外の国からバイヤーを対象にマーケティングが可能となった。岡山県は昨年、反してタイ以外の国からバイヤーを対象にマーケティングが可能となった。



海外のバイヤーにブドウや桃をPRする岡山県のブース

日本国内でも贈答用として安く、高い品質をPRできた。高額の輸送費は、輸出物には大きな負担となる。水が多いため、客層が多いため消費期限が米より短く、「取り扱いは難しい」と指摘も受けた。アジア地域以外での市場開拓の課題があらためて浮き彫りになった。

「買える層もいるだろうが、欧州ではあまりにニッチなマーケットで難しい」と(フランス)という声が多く聞かれた。しかし高評価の一方、「こんなおいしいブドウがあるとは思わなかった」と(オランダ人記者)という反響のうちに、今回の見本市では、世界のバイヤーに岡山の果物の高い品質をPRできた。高額の輸送費は、輸出物には大きな負担となる。水が多いため、客層が多いため消費期限が米より短く、「取り扱いは難しい」と指摘も受けた。アジア地域以外での市場開拓の課題があらためて浮き彫りになった。

山陽新聞 朝刊

2007年9月16日

Kyodoshi.com

2007年8月30日

豊橋特産の次郎柿輸出へタイの国際見本市に出品 東愛知新聞 2007/08/30 09:16... 1/1 ページ

全国郷土紙連合 KYODOSHI

豊橋特産の次郎柿輸出へタイの国際見本市に出品

【東愛知新聞 2007/08/30 09:16:02】

ジロー・パーシモン(次郎柿)、いかがですかー。豊橋、田原両市と地域JAでつくる「豊橋田原広域農業推進会議」(会長・白井良始JA豊橋組合長)は、9月5日からタイのバンコクで開かれる国際見本市「アジア・フルーツ・ロジスティカ2007」へ、豊橋特産の次郎柿(カキ)を出品する。海外のバイヤーに試食してもらい、輸出販路を設ける狙い。とびっきりおいしいカキを送ろうと、JA豊橋カキ部会長の印賀大起さん(下条東町)が29日朝、ハウス内で栽培した次郎柿を収穫した。

次郎柿の輸出は、サイエンス・クリエイト(豊橋市西幸町)が中心となり、2005(平成17)年から香港とタイへ計4回・67ケース送っている。香港は中国産やニュージーランド産との価格競争から「継続困難」とされたが、タイでは現地試食会でのアンケートで95%の消費者が「おいしい」と答えるなど、手応えがあった。日本からの輸入関税が撤廃され、値段が安くなることから、かなり有望な市場になるという。

ドイツ企業が主催する同見本市は、生鮮果・野菜類に限定して1993年からベルリンで始まり、専門性の高いバイヤーが多数参加する。今回はアジア市場向けに、初めてバンコクで開き、25カ国・100社以上が出展予定。日本からは9地域(青森・リンゴ、岡山・ブドウ、福岡・ナシなど)の特産品が選ばれ、日本貿易振興機構が設置するパビリオン内に並ぶ。カキは現在、甘みの強い富有柿が世界的に主流で、次郎柿は甘みが少ないものの、シャキシャキとした食感が売り。ハウスもの12ケース(160玉)を配送し、受注に結びつけたいという。

同推進会議事務局の豊橋市農政課では、「(次郎柿は)名が知られていないが、それを逆手にとって攻勢をかけたい。ハウスものだけでなく露地ものの輸出を広げ、将来的には台湾市場にも売り込みたい」と強気だ。次郎柿は昨年、全国で1万2700トン生産され、うち豊橋産は1位の3913トンを占めている。

写真=見本市へ出すカキを手取る、豊橋市農政課の職員(豊橋市役所で)



次郎柿 タイへ行く

豊橋、田原両市とJA豊橋、JA愛知みなみでつくる「豊橋田原広域農業推進会議」は、タイのバンコクで9月5日に開幕する海外見本市「アジアフルーツロジスティクス2007」に東三河特産の次郎柿を出品する。見本市にはバイヤーも数多く訪れるため、タイを中心にアジアへの販路拡大を図る。(安田功)

アジアへの販路拡大を狙ってタイで開幕する海外見本市に出品される次郎柿—豊橋市役所で



アジアへ売り込み

輸出するのは、豊橋市北部のビニールハウスで収穫された約四十。日本貿易振興機構が設置する日本パビリオン内で青森のリンゴや、福島の桃など全国各地の名産品とともに試食してもらった。

次郎柿は一般的な富有柿と比較し、歯ごたえがあるのが特徴。東三河や静岡県の一部での生産が有名で、昨年のJA豊橋管内での出荷量は約三千九百トンと全国一位だった。豊橋市によると、タイでは富裕層を中心に、既に流通している富有柿への人気が高い。

東三河特産、海外見本市に

上、昨年に次郎柿がタイへセール輸出された際も現地の消費者から高い評価を受けたという。さらに日本とタイの両国間で、関税優待を盛り込んだ自由貿易協定（FTA）を柱とした経済連携協定（EPA）が発効される見込みとなり、本格輸出へ追い風になっていると判断した。

同市農政課は「信頼性差違由に、世界的に日本の果物の人気は高くなっている。攻めの農政で次郎柿の販路を拡大し地域の農業活性化につなげたい」と話している。

Asahi.com 2007年8月31日

【愛知】「次郎柿」海外へ



海外見本市に出展される次郎柿＝豊橋市役所で

東三河地方特産の「次郎柿」が9月にタイのバンコクで開かれる海外見本市「アジア フルーツ ロジスティカ2007」に出展される。世界中から集まるバイヤーに売り込み、海外販路の開拓を目指す。

豊橋市と田原市、地元JAがつくる「豊橋田原広域農業推進会議」が昨年からの準備を進めてきた。豊橋市と小坂井町で525の生産農家があり、一定の生産量

<http://www.asahi.com/food/news/TKY200708310209.html>

が確保できることから、輸出に向くと判断したという。

同会によると、シャキシャキとした食感が特徴の次郎柿は静岡県が発祥だが、いまでは東三河で盛んに生産され、去年は豊橋市が出荷量3913トンで全国1位。「三河のブランドになった」と関係者は胸を張る。

農林水産省が05年にバンコクで110人に次郎柿を試食してもらったところ、96%が「おいしい」と答えたという。

また、タイはアジアの中でも輸入柿の単価が高く、市場としても魅力的だという。さらに、タイと日本の間では、自由貿易協定(FTA)がまもなく締結される見込みで、これも追い風になるとみられる。締結されれば関税がなくなり、競争力が増す。

ただ、ほかの柿に比べて傷みやすく、輸送中にどう保存するかが課題だ。

同会は「次郎柿の名前を知ってもらい、海外でも次郎柿ブランドを確立したい」としている。

「ロジスティカ」は25カ国から100社以上の業者が集まる生鮮果実と野菜の見本市。93年からドイツのベルリンで開催されていた。今回はアジアで初めて、英独の企業が合同で開催する。

日本からはほかに、メロン(静岡)、ブドウ(岡山)、リンゴ(青森)など8団体が自慢の農産物を出展する。

豊橋「次郎柿」輸出へ

タイの国際見本市に出品



シローパーソン(次郎柿)いかがですか。豊橋市豊橋町と地球人として、豊橋市豊橋町でつくる豊橋市豊橋町農業推進委員会(会長白井良樹)A農産組合長の「次郎柿」は、8月5日からタイのバンコクで開催される国際見本市「アジアンフルーツ・ロイヤル・カンファレンス」へ、豊橋特産の次郎柿(カキ)を出品する。海外のバイヤーに試食してもらい、輸出販路を拓ける狙い。とびっきりおいしいカキを送ると、JA豊橋市政会長の白井大起さん(下条東町)が29日朝、ハウス内で栽培した次郎柿を収穫した。



豊橋市下条東町の次郎柿を収穫する、JA豊橋市政会長の白井大起さん

2005年成り年からは、豊橋とタイへ計4回のケース送っている。豊橋は中国産やニュージーランド産との価格競争から「継続困難」とされたが、タイでは現地飲食会でのマーケットで95%の消費量がある。とびっきりおいしいと、タイで愛用されている。白井大起さんは、タイへの輸出が拡大され、値段が安くなることから、かなり有望な市場だと見ている。

タイ企業が生産する同果物は、生鮮果野菜類に認定して2003年からベルリンで始まり、専門店の青いバイヤーが多数参加する。今回はアジア市場向けに初めてバンコクで開き、25万個、100社以上が出展予定。日本からは、地産(豊橋市)の次郎柿(アジアンフルーツ)が選ばれ、日本貿易振興機構が設置するパレオ内にある。カキは現在、甘みの強い富有柿が世界的に主産で、次郎柿は甘みが少ないものの、シャキシャキとした食感が売り。ハウスものは、アイスハーブ(氷)を配送し、夏場に持つことが可能。同推進会議事務局の豊橋市農政課では、「次郎柿は名前が知られていないが、それを改善して」といっている。

豊橋市へ出すカキを手にとる。豊橋市農政課の職員(同市農政課)で

攻勢をかけた。ハウスものだけでなく、露地ものも出荷する。

おいしい1本 まごころいっぱい

株式会社 丸八製菓

〒441-8118 豊橋市高島町字下地25番地-1
TEL.0532-25-0808 FAX.0532-57-9100
http://www.yagumo.co.jp/

の輸出を促し、将来的には海外市場でも売りたいと意気込み。次郎柿は昨年、全国で1万5000トン生産された。豊橋産は1位の1000トン(豊橋市産)を占める。(豊橋市農政課)

中京テレビ

2007年8月30日

中京テレビ:リアルタイム 探検隊



2007.8.30

次郎柿が国際見本市に

愛知県特産の「次郎柿」が来月、タイのバンコクで開かれる国際見本市「アジア・フルーツ・ロジスティカ2007」に出品されることになり、豊橋市石巻町のJA豊橋で発送作業が行われた。

組合員らが色や形など出展する柿を1個ずつ厳しくチェックし、梱包した。見本市には25か国から100社以上が出展、世界中からバイヤーが集まる。

■ Close ■

COPYRIGHT (C) 2003 CHUKYO TV.BROADCASTING CO.,LTD.

タイ・青果物の国際見本市

マラヤフルーツ 南部町 出展へ

県産リンゴ輸出拡大狙う

タイ・バンコク市で九月五～七日が開かれる青果物専門の国際見本市「マラヤ・フルーツ・フェア」に、本県から南陽町のリンゴ卸会社マラヤフルーツ（南陽青果社）が出展する。県産リンゴをタイを主

とする。同見本市は、毎年タイ・バンコク市を中心に行なわれていた大規模な仕

「タイの青果物」をテーマにした初のマラヤフェア（マラヤ）を開催。日本産青果物の輸出拡大を目的として、日本がリンゴを得意とし、日本からは、マラヤフルーツをはじめ、メロン、トマト、

出され、そのほかにはリンゴ、バナナ、マンゴ、イチゴ、ナカイキキなど、一環の輸出実績がある。東洋行旅にまつて、既に一定の経験を積んでい

（南陽青果社）が出展する。県産リンゴを主とする。同見本市は、毎年タイ

同見本市は、毎年タイ・バンコク市を中心に行なわれていた大規模な仕

タイの青果物専門の国際見本市「マラヤ・フルーツ・フェア」に、本県から南陽町のリンゴ卸会社マラヤフルーツ（南陽青果社）が出展する。県産リンゴをタイを主とする。同見本市は、毎年タイ

同見本市は、毎年タイ・バンコク市を中心に行なわれていた大規模な仕

タイの青果物専門の国際見本市「マラヤ・フルーツ・フェア」に、本県から南陽町のリンゴ卸会社マラヤフルーツ（南陽青果社）が出展する。県産リンゴをタイを主とする。同見本市は、毎年タイ

同見本市は、毎年タイ・バンコク市を中心に行なわれていた大規模な仕

タイの青果物専門の国際見本市「マラヤ・フルーツ・フェア」に、本県から南陽町のリンゴ卸会社マラヤフルーツ（南陽青果社）が出展する。県産リンゴをタイを主とする。同見本市は、毎年タイ

同見本市は、毎年タイ・バンコク市を中心に行なわれていた大規模な仕